
保護

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
保護

【Nコード】
N7140F

【作者名】
柊鏡

【あらすじ】
地球人類は太陽系を脱出した。順調に宇宙の開拓は進んでいった。

・保護

地球人類は太陽系を脱出した。

順調に宇宙の開拓は進んでいった。

宇宙屯田兵のディックは新しい移民先を探して宇宙空間を彷徨さまよっていた。

なかなか新しい惑星は見付からず、やきもきしながら、窓越しに宇宙空間を見た。

すると何かが迫ってきていた。白い球体だった。

それはずんずん接近して、ディックはぶつかると思った。回避運動を取るうとしたが無理だった。

ディックの宇宙船は球体と接触した。

ディックが目を醒ますと、自分の宇宙船の天井が見えた。

何事も起こっていないかのように思ったが、首から下が動かないことに気付く。頭部だけは自由なので、周囲を見回した。

緑色の宇宙服が目に入った。

この人物はしばらくディックを睥睨してから、屈みこんだ。

手には首輪のようなものが握られている。

緑の宇宙服の男は、首輪をディックにつけた。ディックは抵抗しようとしたが上手くいかなかった。

がちやがちやと複雑な動作で首輪をロックすると、立ち上がる。

男が手を打ち鳴らした。

ディックは身体が解放されるのを感じた。四肢が自由になった。首輪に手をかける。外れない。

男に怒鳴った。「外せ！」

彼は動じず、クールにディックを見詰めている。

ディックは緑の宇宙服に飛びかかった。

瞬間、胸が痛んだ。視線を胸部に向ける。血が出ていた。何かに貫かれ、腹部にぼっかり穴が空いている。

背後を振り返った。そこにも緑の宇宙服が立っていた。ただし、ヘルメットをしていなかった。

彼の頭部は人類のそれではなかった。エイリアンと呼んでよかった。

ディックは叫んだ。「何なんだっ！」

アラスカの州都アンカレジ　世界で最も自然と接近している大都市。

人間が棲み始めたのは二十世紀初頭、町が拡大するに従って、動物たちとの確執は深まっていった。

人類は先住の動物のことなど構わなかった。保護といいながら、彼らの首に発信機をつけ管理した。人を害せば撃ち殺された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7140f/>

保護

2010年10月14日03時56分発行